

言葉の瓦版

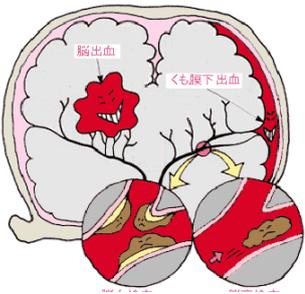
高次脳機能障害とは

私たちは、普段なにげなく人と話をしたり、スーパーで買い物をしたり、車の運転をしたりしています。それらは、すべて脳が働いているからできることなのです。

脳は、私たちが見たり聞いたりした情報を受け取り、素早く処理し、行動に移す指令を私たちに送っています。

したがって、脳卒中（脳梗塞・脳出血）や脳の病気などを起こすと、それらのことが上手にできなくなることがあります。

その機能障害の総称を「高次脳機能障害」といいます。今号では、「高次脳機能障害」について特集します！



©MPC

日常生活での現れ方



『洗濯しようと思ったんだけど、洗濯機の使い方がわからなかったんだ・・・』これは、入院後、ご自宅に戻られた患者さまの言葉です。その言葉を聞いたとき、『しまった・・・』本当の生活が見えていなかった！』と思いました。

高次脳機能障害は、いろいろなことを臨機応変に行なわなければならない、職場や学校、買い物、役所や銀行での手続き、交通機関の利用など、日常生活の中で問題となること多く、逆に言えば、医療機関の中では見落とされる症状も多いのです。

例えば、出かけるまでの時間を逆算して、行動することが困難なため、予定時間に出発することが難しい。目的を達成するまで、一つの物事に固執してしまうことがあるため、達成できない場合は、混乱・興奮してしまうことがあります。

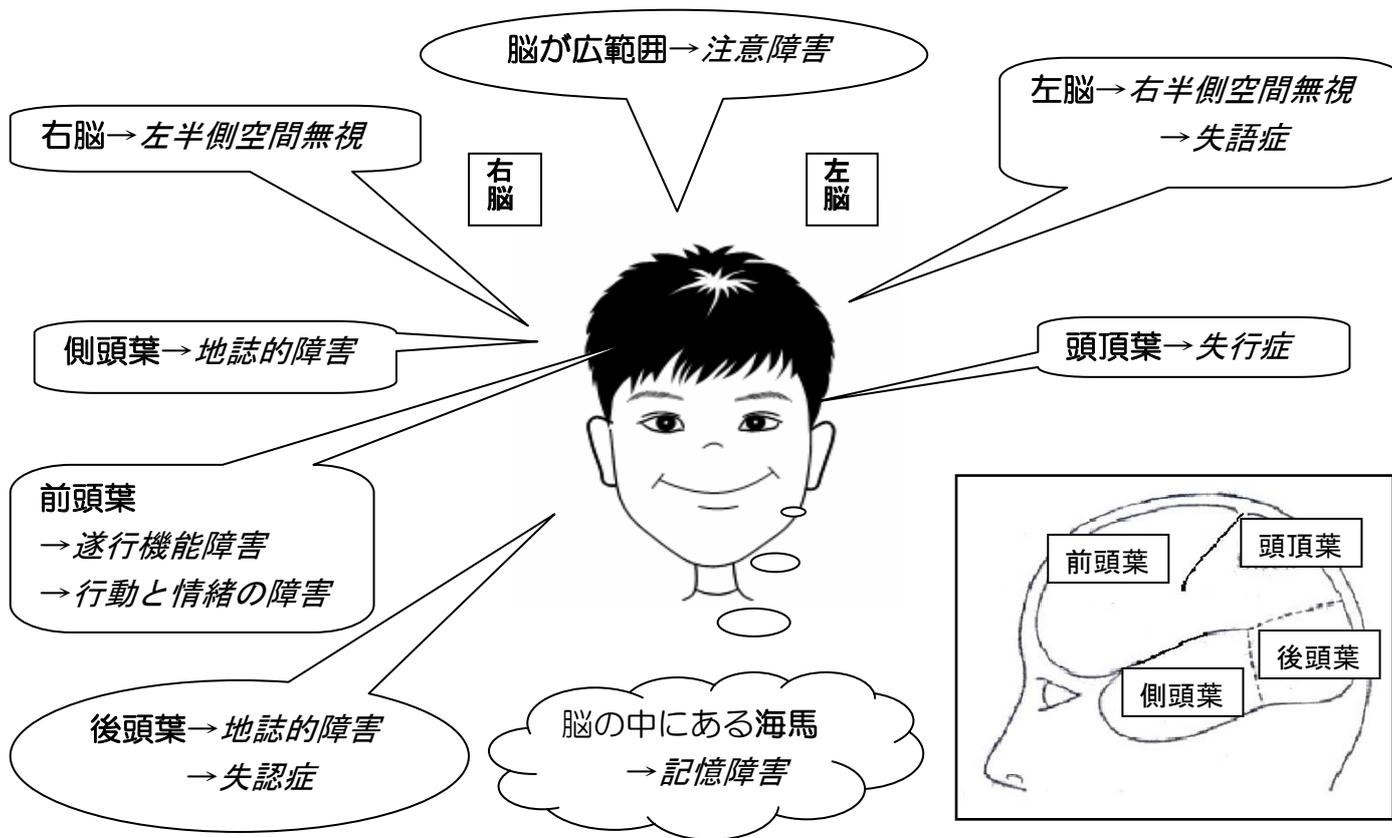
以下に、日常生活の中での例をあげます。

- 〈起床〉目覚まし時計をセットすることができないため、1人では起きられない
- 〈着替え〉袖の通し方がわからない、スポンがうまくはけない
- 〈歯磨き・整容〉歯ブラシや、髪をたくブラシの使い方が拙劣
- 〈食事〉同じものばかりを食べる、片側のみを見落とす
- 〈公共交通機関に乗る〉自動販売機での切符購入方法がわからない
- 〈目的に行く〉目的地までの順路を覚えられない、慣れている道でも、人通りの多さや天気の違いなどで、混乱することがある
- 〈買い物〉自宅に何があるか、何を買いに来たのかわからないことがある。お金をうまく払えない（特に小銭）
- 〈電話〉操作の仕方がわからなかったり、数字をうまく押すことができない
- 〈テレビや新聞を見る〉内容がとらえられない、集中してみることができない

ここに上げた症状はあくまで、一例で、症状は多岐にわたります。症状に対応する前に、まず、症状をとらえることが大切です。

高次脳機能障害の種類

☆高次脳機能障害は、頭の損傷部位によって起こる症状が様々です。ここでは、損傷部位とその種類、症状をご紹介します。



☆人間は、視覚、聴覚、味覚、触覚から刺激を受けて脳に情報を送っています。そして、脳は送られた刺激に対して言葉にしたり、学習したりします。さらに、記憶した知識や経験を基にして判断をしたりします。このような脳の機能の障害が起こると、次のような症状が現れます。

半側空間無視

損傷された脳の反対側の空間に意識が向かない、気づきにくい症状です。

半側身体失認

身体の半側に麻痺があっても、それを自覚できにくくなります。

遂行機能障害

だんどりや手順の組み立てや実施が、効率よく出来なくなります。

行動や情緒の障害

情緒や意欲のコントロールがうまくいかず、状況に適した行動がとれなくなります。

注意障害

注意力や集中力が低下するために、続けられる力や物事を見つけられる力、いくつかのことに注意を向けたりすることがうまくいかなくなります。

地誌的障害

覚えている場所が思い出せない、道順を覚えられないなど地理や場所に関する症状です。

記憶障害

過去の出来事を思い出せない、新しい出来事を覚えられないなど記憶の力が弱くなります。

失認症

視覚、聴覚、触覚の機能に問題が無いのに、それが何であるかわからなくなります。

失語症

言葉が出てこない、言葉の意味がわからない、読み書きが出来ない、などの言葉の障害が出ます。

失行症

麻痺などの運動制限が無いのに、日常の簡単な動作がうまく出来なくなります。